

Daichikyo News

大地協ニュース

大地協ニュース復刊 第2号

発行元：NPO 法人 大阪市地域福祉施設協議会
企画委員会《広報宣伝部》
発行日：2019年3月 第2号
担当：望之門保育園 佐伯 剛

TEL 6651-7741

Fax 6652-8841

大地協の最新☆情報は右記→
QRコードをご覧ください。



自然体験応援大地協バザー

会場☆風の子保育園☆



『楽しかったね！また来年！！』 第20回自然体験施設応援バザー開催！！

第20回自然体験施設応援バザーを、平成30年11月11日に開催しました。

このバザーは毎年大地協加盟施設が持ち回りででない、大地協が所有する自然体験施設の運営資金にあてられます。今年度は風の子保育園が担当となり、風の子保育園ならびにベビーホーム園庭にて、「風の子よっといでまつり」と称して開催しました。これまでは、模擬店や舞台イベントの他に、各施設より物品を集めてバザーも行なっていましたが、今回は行なわず、子どもたちが楽しめるものを中心に企画しました。

加盟施設からはスタッフ約100人が集結。各々の施設が趣向を凝らしたブースを出店。本格的なチヂミ、いい匂いに引き寄せられる炭火焼ベーコン、コーンカップに入った本格的なアイスクリーム屋さん。他にもミニパフェやうどん、おでん、焼きそばなど、見た目や香りでも楽しめ、もちろん味もばっちりです。

ゲームコーナーでは、スマートボール、射的などで盛り上がり、

景品も豪華で満足気な子どもたちでした。将棋コーナーでは、有段のスタッフが子どもたちと対局。真剣そのもの。地域の子ども研究会担当の無料あそびコーナーでは、松ぼっくりにビーズなどで飾りつけをして可愛いクリスマスツリーの出来上がり。

舞台は、地域の障がいのある子どもたちの空手演武で幕開け、将棋ものしりクイズ、バルーンアートと続きます。風船で作ったキャラクターをもらった子どもたちは大喜び。

おまつりの最後には、あそびうたユニット「かばうま」の2人が登場し、歌や手遊び、踊りで賑やかに締めくくられました。

地域の方、保育園・児童館の親子をはじめ、加盟施設関係者の方も遠くから来られ、大盛況でした。「楽しかった」「おいしいものがいっぱいビールがほしかった～」「晩ごはんにおでんをいっぱい買って帰った」「ゲームの景品も良くて子どもたち大喜び」…と皆さん楽しいひと時を過ごされました。

来年は《長居保育園》での開催予定です。

風の子保育園 大宮 則子





よく晴れた日曜日。生野区 KCC 会館にて大地協主催『隣る人』の自主上映会を開催。
『隣る人』を鑑賞された方々の末だに冷めない熱い思いをここに。

『隣られる人から隣る人に』

隣る人を見て自分が感じたことは、難しい話や聞いたことのないことが出てくるのかなって思っていたけど、実際は自分の周り、自分自身に重なることが色々あってあっという間に見終わっていた。その中で一番自分が目を置いて見ていたのが一人の女の子で、その女の子は何かしらの理由で児童養護施設にいた。その子はその施設の人を、親に置き換えている様に思えた。その女の子は、定期的に母親と会う機会があり、食事をしたりして自分が今まで普通に親と過ごしていたことが当たり前ではなかったんだと心に残っている、でもその女の子は母親に会うと、素っ気ない態度をとってしまって母親もその違和感を感じて施設の人に相談をしていた。そして、この作品の最後の方でその女の子の誕生日会の場面があって、施設の人が女の子に向けて言葉を詰まらせて「ずっと一緒にいようね」と言ったことは、すごく印象的だった。

この作品を自分自身に置き換えて考えた時に「居て当たり前の存在」って何か考えた時に自分は「居て当たり前の存在」がないことはやっぱり寂しいなって思った。でもその反面、その存在がいなくても隣で寄り添ってくれたりする人が居れば少しでもその穴を埋められるようにも思えた。作品を見た後に周りの人と感想を話したり聞いたりして、「隣る人」を見るのは初めてで多くのことを知れて、でも何回も見る人も同じで見る目線を変えることで見終わった後の感想が変わったりすると言っていた。何回見ても「当たり前」は何かを考えさせられるんだと、監督さんと見に来ていた人とも話していて思いました。最後に、この作品を見てもっと多くの人に知って見てもらいたい、自分も誰かの隣る人になりたいと思いました。

今池こどもの家OB 荒松 恵太(高校3年生)



『寄り添い前を向く』

初めて「隣る人」を見て、静かな日常の中にたくさんの人たちの色々な思いが交錯している映画だと思った。子どもたちの日常を切り取った映画の中に、施設の職員たちの思いや親の思い、監督の思いがスクリーンを通して伝わってくるようだった。子どもたちは行動を通してストレートに気持ちを職員にぶつけている姿もあった。それをただじっと隣で受け止め続ける職員の存在。淡々と描かれているように見えたが、子どもたちに寄り添いながら生活していくことは簡単なことではないと感じた。24 時間それこそ本物の家族のように関わり合っていくことが求められる。良い時も悪い時も、どんな時であっても、変わらず隣にいてくれる存在が当たり前になるように。

家族が隣る人となれない場合、誰かが寄り添って共に生活し色々なことを共有していく存在が子どもたちには必要だ。自分を認めてくれる存在がそばにいて、自分を初めて認識できて大切と思えるのではないかな。自分が今ここに生きている証のような、存在価値が自分の中にしっかりあることで、子どもたちは前を向いていけると思う。だから、どんな時も隣で受け止めてくれる存在がいかに大切か。ごはんを食べ、お風呂に入り、眠るという当たり前の生活を一緒にする存在がいて、子どもたちは自分たちの暮らしを獲得していけるのだと思う。

児童養護施設に限らず、どんな現場であっても子どもたちにとって隣る人の存在は必要だと思う。たとえ生活の一部の短い時間であっても、子どもと関わる自分が隣る人でありたいと思った映画だった。

今池こどもの家 勝山 美紀



台風の被害状況 修繕復旧状況

バスの中で先生から「琵琶湖が見えましたよ」と言われてもあまりピンとこないのはまだ遠くに感じるからでしょうか。泡色の湖は姿を隠してゆらり、やっとオレンジのバスから降りてからも歩きます。「はい。セツルの家に着きましたよ。」「な～んだふるいおうちだなあ。」「ムシいかなあ」玄関に入ってもただの古い家です。「びわこはどこ？」家と家の間の路地のような通路をタカタカ通って角を曲がると、突如現れたのは青い湖、すぐにでも手が届く大きな琵琶湖が目の前に広がります。セツルの家に初めてやってくる子どもたちには、その風景を見た感動を心に強く刻み付けられます。



セツルの家と琵琶湖の近さは大人でも驚きです。家の中にも波の音が聞こえます。何か心のモヤモヤを洗い流してくれそうな、そんな優しい波音です。さあ早速水着に着替えて、子どもたちの目線からすると、とても大きく感じる湖ですので、中に入るにはちょっと勇気がいるのかも。「あしのウラがいた～い！みずがつめた～い！でもきもちいい！アッおさかな！」夢中になるうちにいつの間にか澄んだ湖に入っています。保育園のプールでは味わえない醍醐味がそこにはあります。いつの間にか子どもたちは琵琶湖に慣れています。いよいよ飛び込み台に上がります。「わあたかい！すこしこわい！」足からゆっくり入ると、「あれっあしがつかない！せんせ

いたすけて！」勇気を出してざぶ～ん！先生もすぐに助けてくれます。「すご～い、跳べたね！」自信の笑顔の子どもたちは、もっと高く、もっと遠くへ飛び込みます。子どもが学ぼうとする力はすごいです。いっぱい遊んで、セツルの家で少し休憩です。緑の茂った桜の木は、夏の強い日差しも遮ってくれます。でもそよ風は通してくれます。おかげでやさしい波の音を聞きながら、みんな気持ちよく休むことができました。

いつもは穏やかな琵琶湖ですが、大きな台風で飛び込み台は2台とも流されてしまいました。一台は近く(それでも直線距離で約170m)で見つかりましたが、もう一台は直線距離で約650mも流されていました。波に揉まれて鉄のフレームが折れ曲がった姿を見て私たちはとても悲しくなりましたが、セツルの家に何とか連れて帰ろうとみんな集まってくれました。載せられるトラックもありませんので、人力で運ぶしかなく、道に上げるには2～3mぐらい持ち上げないとダメなので、湖の中を持って運ぶことにしました。たくさんの応援のおかげで湖岸沿いの遠い道のりを手で持って運ぶことができました。また、桜の木は根こそぎ倒れてしまいました。年齢はわかりませんがかなりの老木でしたので、このままでは枯れてしまい、倒れて危険ということもありましたので、切り倒すこととなりました。今回の台風で奇跡的に建物は被害が少なく済みましたが、桜の木がそよ風は通しても強風からは建物を守ってくれたような気がして、涙が出そうになりました。桜の木も飛び込み台も何も言いませんが、私たちから今までありがとうと感謝を言いたいと思います。夏には飛び込み台が復活するように！

長居保育園 宮川 成雄



大地協 個人○法人 会員大募集!

特定非営利活動法人大阪市地域福祉施設協議会
会員を募集しています。

当法人の活動にご賛同いただける方、
入会をご希望の方は

本紙表紙の《大地協QRコード》より、
詳細をご確認いただきお申込みください。

地域の

障がい児・者研究会の活躍

愛称『しょうけん』の主なメンバーは現在7施設9名。

月に1回、勤務後の午後7時30分～9時00分を定例に会として活動しています。

今年度も各施設の実践報告、ケース検討を行うとともに支援者座談会を実施してきました。

この座談会は大地協に加盟していない放課後デイサービスの職員も巻き込んでの学習会、新たな仲間づくりの場というねらいがあります。

今年度は10月23日(火)に育徳園保育所3階幸分ホールにて開催。13施設27名が「現在の悩み、問題点」について熱く語り合いました。

そして1月29日(火)には講師に梅花女子大学教授の伊丹昌一先生をお招きし支援者研修会を開催。

『つまづきのある子どもの意欲の土壌を育むために私たちができること』というテーマについて学びを深めようと約80名の参加者で幸分ホールは熱気ムンムンでした。『しょうけん』はともに学び語り合うメンバーを募集しています。お気軽にご参加ください。



平和の子保育園 谷川 勝敏

私たちが日常活動する現場(地域)には最先端の課題とともに最先端の智慧(ちえ)もあります。その智慧を新たな価値として誰もが安心して暮らすことのできる地域の創造をめざす“若き未来のセツラー”をお待ちしています!



わかかさ保育園 西野 伸一

地域の

子育て支援研究会の活躍

『ひろげよう! 地域の子育て支援研究会のWa!!』

「地域の子育て支援研究会」は、保育所で仕事をするうえで役に立つことやヒントになること、自分の知識として蓄えていけるもの、などの内容で研修会を実施し、制度や指針が変わった時には研究活動をしてきました。

ここ数年は、研修会も研究活動も休眠状態でしたが、2018年度から新メンバーが加わり、新しい視点からの活動を探っているところです。

今年度は、情報交換と職員

交流を目的にいくつかのテーマを決め、日常の保育の中での戸惑いや悩みなど、「こんなときどうしてる?」と気軽に相談できる場になるような研修会を目指し活動してきました。地域の子育て支援研究会だけでなく、他の研究会とコラボする機会もあり、企画の幅が広がり、他施設の先生方と意見交換する中でさまざまな取り組みや実践を知ることができました。今後も研修に参加して学んだこと、気付いたことを自分たちの施設に持ち帰り、保育に役立てていけたらと思います。

また、小学校との連続性が重要視されていることもあり、子どもたちの将来を見据えた内容も検討しています。研究会を通して現場のニーズを探り、来年度の活動に活かしたいと考えています。

課題としては参加施設や参加人数がなかなか増えないことがあります。参加しやすい研究会として会場を固定せずに施設見学も兼ねた内容を企画したり、時間を昼間に設定したりと新たな取り組みも始めました。

今後も、たくさんの方々に大地協の「地域の子育て支援研究会」の事に興味をもっていただき、気軽に参加してもらえるように楽しい企画を考えていこうと思っています。和やかな雰囲気が進めたいと思いますのでぜひ遊びに来てください。

育徳園保育所 隅谷 陽子

地域の

セツルメント研究会の活躍

『こんにちは “セツ研” です』

セツルメント研究会(以下、セツ研)は、保育、児童、高齢、障がいなど、さまざまな分野で働く仲間が集い、現場での喜びや悩みを語り合っています。

その語りは、自分自身の多様な可能性や、仲間とのつながりから生まれる深い気づきや力(メチエ)を与えてくれます。やはり、言葉は「セツルしてる?」ではないでしょうか。

『セツ研は、どんなことしているの?』

2018年度は、ドキュメンタリー映画「隣る人」(刀川監督)の自主上映会を開催して「寄り添うとは何か」ということを参加者とともに考えました。

また、セツ研主催の研修会では、松村寛先生(水仙福祉会理事長)をお招きして、大阪の社会福祉の歴史から学びました。私たちは制度の中だけの仕事に安住するのではなく、ニーズの範囲が仕事の範囲と捉え、先駆的・開拓的に取り組む「民間性・ボランティアズム」の大切さを改めて学びました。

